

「新聞を使ったNIE授業は無理」「英字新聞は中学生には難しいので使えない」などという声を英語教師からよく聞きます。確かに、ニュース記事を英訳したり、英字新聞を日本語に直したりすることは中学生には難しいですが、いくつか方法が考えられます。

まず、NIEの第1の目的は「新聞のよさを生かして、教科授業に役立てる」ことですが「新聞を読む子どもたちを育てる」ことも目的です。そこで、新聞のあるページの中で、カタカナで書かれた外来語を蛍光ペンで塗って選び出し、「英語の綴りを書く」「日本語の意味を書く」「自分ならどんな漢字で表現するか」などを行わせます。漢字は表意文字ですから、新しい熟語でも作りやすいですし、知らない熟語でも、個々の漢字からおおよその意味を推測できます。英語の表記は英和辞典を使わせる方がよいでしょう。

9月17日の朝日新聞朝刊39ページ（第1社会面、広告を除く。東京本社発行の最終版に基づく）には、ピアノ、プレート、ケースなどカタカナの外来語が9語ありました。固有名詞、省略語は除外しています。また広告には外来語があふれています。

明治時代は欧米から新しいものや言葉が入ってくるとその意味や内容を考え、ふさわしい漢字をみつけて漢語に訳しました。現代はわけの分からないカタカナ語があふれています。アイデンティティー、メディアリテラシーなどはよく使われますが、少なくとも英語の表記も添えてほしいものです。

次に、四コマまんがを英訳でなく、英語で表現させます。まんがと吹き出しのことばなどを基にして、知っている用法や単語を使います。中2の9月位から可能です。三つ目に、見出しを消した記事に、見出しを付けさせます。数年前、選択社会科で、イグアナが民家の木の上に登ったという記事を配り、見出しを付けさせたところ「oh! iguana」と書いた生徒がいました。綴りが合っていればもちろんこれも正解です。

最後は、写真の説明を英語で表現させます。キャプションとかエトキ（絵解き）といいます。

「新聞」を使った授業には完璧な正解はないと思ったほうがよいですし、「自分はこう思う」「私ならこうする」という自分の意見や感想を答えさせます。

(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)